

2. 10年前も現在も親元にいる未婚女性の状況

親と同居する未婚ミドル女性、生活程度が「中の下」と感じる人が増加

1. は2時点の比較であったが、2005年に親元で暮らしていた女性は、その後どのような生活を送っているだろうか。2005年時点の親元同居者未婚者368名(当時26～46歳)のうち、2015年時点でも調査に回答し、かつ未婚であったのは139名(37.8%)であった。そのうち、親元同居者は113名(未婚者のうち81.3%)である。ここでは、2005年も2015年も親と同居する未婚者であった女性113名(現在36～56歳)を対象に、その一人一人がこの10年間でどう変化したのかについて、家計状況や生活程度の評価に注目して調べてみた。

10年経過する中で、年収は約30万円、手取り収入も約1万4千円ほど増加している。親へのお金を渡す人の割合はあまり変わっていないが、渡している人の金額はやや増加しており(図表3)、生活程度も「中の下」が1割近く増加している(図表4)。親元で暮らし続ける未婚者たちは、一人一人が10年を経てその多くが中年となる中で、自らの生活程度を10年前よりも低く評価していることがわかる。

図表3 10年経過後 親元未婚女性の家計状況

	2005年 (当時26～46歳)	➡	2015年 (現在36～56歳)
年収(平均・万円・税込み)	278.0		309.6
手取り月収(平均・万円)	17.3		18.7
1カ月の支出計(平均・万円)	10.5		10.9
うち自由裁量支出	4.0		3.0
1カ月の貯蓄額(平均・万円)	3.3		2.8

親へ収入を渡すか(%)			
(渡さなかった)	38.1		36.3
(一部渡した)	48.7		48.7
(その他)	13.2		15.0
親へ渡した額			
(平均・万円)	4.6		4.9

就業率(%)	86.7		82.3
うち正規割合(%)	68.0		64.9

2. 10年前も現在も親元にいる未婚女性の状況

図表4 10年経過後の生活程度の変化

